グループホーム鶴の郷
（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0990500118		
法人名	社会福祉法人もろ栄福祉会		
事業所名	グループホーム鶴の郷		
所在地	栃木県鹿沼市茂呂字極瀬243-8		
自己評価作成日	令和 元 年 11 月 5 日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 1 月 22 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1－10－6
訪問調査日	令和元年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・ご利用者様の自主性・自発性を最大限に尊重し、自立を支援していくことで、生きがいを感じて頂き、『もうひとつの我が家』と思って頂けるようなグループホームに努めている。
・ご愛用の家具等をお持ち頂き、慣れ親しんだ環境作り(和室・洋室を希望等により選択して頂く等)を行っている。
・日当たり良い中庭のウッドデッキにて外気浴や運動・散歩等が気軽にできるようになって、日々の楽しみを感じて頂けるような場所にしています。日当たりの良いリビングスペースを中心に各居室を配置しています。
・昔を思い出して頂ける環境整備をしたり、季節にちなんだ掲示物を作ったり、季節を感じていただける物を飾ったり、楽しみをもって頂ける空間作りにも努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業は、市南東部の高速道路インターチェンジにほど近い農地や工場、新興住宅が混在する地域にある。建物は瓦葺の重厚な純日本風の造りであり、玄関アプローチには大きな釣り鐘や大八車が配置され趣を醸し出している。職員は「絆の誠」という法人理念をはじめ、事業所の年度目標、毎月の目標を常に念頭に置きながら丁寧に利用者の思いを汲み取り、笑顔のある支援に努めている。食事は利用者の大きな楽しみの一つであると考え、職員が介助をしながら一緒に摂ることにより、好みや日々の状況に合わせた美味しい食事の提供に努めている。単調になりがちな生活に変化を与えるとともに季節が感じらるよう、行事やレクリエーションを多く取り入れている。また、心身の健康の維持、向上のため毎日体操を行ったり、ドックセラピーの取り入れやヨガ教室への参加なども支援している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員掲示板や会議等で伝えていくことで全職員が理念を理解し、それに従って目標やケアを行えるよう、毎月の目標や委員会で目標等を設定し、実践している	職員は法人理念の他、事業所の年度目標、毎月の目標を常に念頭に置きながら支援に当たっている。申し送り時や毎月の会議で振り返るとともに振り返りシートを活用して、次の目標設定にも繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会にて民生委員の方々に出席して頂いている。ボランティア等を積極的に受け入れ、さつき祭り等の行事には、地域の方々に参加して頂き、交流の機会をもっている。小学生との交流も行っている。	事業所主催の「さつき祭り」には、多くの地域の方の参加があり、交流を広げている。地域のさくら祭りや法人主催の小学生との交流会にも参加している。近所の方からお米の差し入れや雑巾の寄付があったりするなど、日頃から地域とのつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している『鶴の郷便り』の認知症についての項目において、地域やご家族様へ認知症への理解をして頂ける様に努めている。又、行事や運営推進委員会等で施設を訪れた際にも施設での様子が伝えられるような掲示での工夫をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様や施設での取り組み状況報告等を行い、民生委員の方々や家族様代表者よりご意見等を頂き、ケアの参考にさせて頂いている。	会議では運営状況について報告するとともに、市担当者や民生委員から感染症や地域の情報提供がされている。年1～2回は市の防災担当者から話を聞いたり、出前講座を活用して成年後見制度について勉強するなど工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、市町村担当者と連携を取り合い、サービス向上に努めている。又、運営推進委員会出席をして頂き、運営状況や取り組み内容等に関して報告し、相談やアドバイスを頂いている。	運営推進会議で情報提供や助言をいただくほか、法改正などでわからないことがあればその都度積極的に相談するなど協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロ委員会による拘束に対する取り組み、勉強会による知識を全職員に伝わるよう周知し、実践している。又、『言葉により行動の制限』については、毎年取り組み課題として行っている。自己振り返りﾁｪｯｸｼｰﾄを年2回実施し、ケアの改善につなげている。言葉づかいの適正に関する評価基準も掲示している。	身体拘束・褥瘡ゼロ委員会を隔月ごとに開催し、全職員に周知して身体拘束をしないケアに努めている。特に、声掛けには抑圧的にならないよう職員通路に言い換えや禁句などを掲示するとともに、職員どうしで常に注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人主催の身体拘束ゼロ委員会に出席し、勉強会に参加している。その後、グループホーム会議等で勉強会を実施している。又、高齢者虐待に関してのﾁｪｯｸﾘｽﾄを全職員が実施し、ケアを見直すことで虐待が起きないように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し、成年後見人制度について学び、実際に成年後見制度を活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、分かりやすく説明する様に心掛けている。又、安心して過ごして頂くためにも不明な点に関しては、いつでも問い合わせして頂ける様にお話し、納得して入所して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に気付いた点を話して頂ける様な機会を設けている。面会時には、職員より利用中の様子等をお伝えし、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを図ることで要望等を聴きケアにつながるようにしている。又、運営推進委員会に家族様代表者が出席して頂き、ご意見等を頂いている。	利用者からの意見や要望は日頃のケアを通じて丁寧に聞きとるよう心がけている。家族からは面会時等に積極的に様子を伝え、要望等を聞いている。体調の変化時にはその都度家族に伝えたり、毎月広報誌を送付するなどしてコミュニケーションを図るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や面談等にて意見等を受ける機会を設けている。又、アンケート等や意見箱により、職員の思いや考えが把握できるように努めている。提案書にて書面での要望等も職員より提案できる体制をつくっている。	日頃から管理者や総括主任は、職員の意見の出やすい雰囲気づくりに努めている。時にはケアのあり方について投げかける場合もある。クッションの購入など職員提案はできるだけ反映するように努めている。年2回の面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、面談等を行う事で個々の目標設定や現状把握を行っている。又、相談等をいつでも受けれる様にし、職員の勤務に関しての不安解消や向上心をもってもらえる様に努めている。平成28年度、第1回栃木県キラキラ介護グランプリ資質向上部門、第2回栃木県キラキラ介護グランプリ最優秀賞を獲得できました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修会には、積極的に業務等に考慮し、参加できる様に努めている。又、施設内研修として、グループホーム会議にてテーマを決めて、取り組んでいる。定期的に参加し、ケアの向上に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種委員会での同法人他施設職員との交流を、勉強会の実施を行っている。また、職員旅行や忘年会にて、普段かかわりを持たない職員との交流により学べる機会を持っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者への思い、発言、動作等については、より注意深く観察し、コミュニケーションを行い、迅速に対応できるように心がけている。また、入所前、入所後にもご家族からの情報を得られるように、こまめに連絡を取り合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前での在宅サービスや入院中での様子等を調査し、入所後に大差ないサービス提供が図れる様に努めている。又、面会時等に職員側から声を掛けたり、利用者様の様子をお伝えしたりと積極的に交流を図る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の調査を踏まえて、最善な選択となるように慎重に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の個々の性格や状態を見極め、今までの生活の延長として行える事が継続できるように、レクリエーションや家事等を中心に行って頂いている。食事等は、利用者様と一緒に食する事によって、少しでも暮らしを共にする者同士の関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と病院受診や外食等の外出の機会をもって頂いたり、面会時にはゆっくりと過ごして頂ける様に対応を心掛けている。利用者様と家族様の気持ちをふまえながら対応していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの築き上げた事や生活が継続され、少しでも馴染みの場所等に行ける様、外泊が出来る様、支援している。	家族の協力のもとにお盆の墓参りや正月の帰宅などを支援している。親戚などの面会があった場合は、部屋でゆっくり寛げるよう配慮している。かかりつけのマッサージ師が訪問している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活という面において、不安や淋しさを出来るだけ感じさせないよう職員が適宜間に入り円滑に関係を結んでいる。又、利用者様が密に関われる機会を提供している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も安心して、暮らせる様に、積極的に家族様等と話すことで、不安なく生活できるように支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの訴えや生活歴、ご家族の声を大切に考え、ミーティングや担当者会議でも職員間で適宜話し合い、意見を出し合いながら本人が何を考え、望んでいるのかを探りつつケアをしている。	家族から生活歴などを聞き取り、情報を共有化して思いや意向の把握に努めている。入浴時などの1対1での支援時の何気ない言葉を大切にするよう心がけている。意思疎通が困難な場合には、仕草や表情から推察するなどして思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの訴えや生活歴、ご家族の声を大切にし、今までの生活が継続できるよう個別に対応（環境等、時間の流れ等）している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックに始まり、レクリエーションや家事を中心として出来る事への声掛けを行い、退屈と感じる時間が減るよう努め、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な担当者会議やモニタリング、アセスメントの実施により把握している。ご本人とのコミュニケーションや、家族様には現状等の確認を行いながら、要望等を確認し安心して生活して頂ける様に援助内容の検討をしている。また、ユニットミーティングでは、シートを活用して入居者様の現状確認等をしている。	ユニットごとに情報を収集し、毎月の担当者会議で家族、主治医の意見なども取り入れ介護計画を作成している。基本的には半年ごとの見直しであるが、状態が変わればその都度適切に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時系列で状況が把握できるようにしている。また、毎月評価シートを記入し、プランの実施状況の把握に努め計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にとって、何がベストかと言う視点で、状況に応じてグループホームだけにとらわれない対応を心掛けている。病院受診付き添い・訪問歯科や訪問理容室を実施し、歩行等の移動動作が難しい方への対応も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	飲食店や公園等への外出を行えるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される病院での受診を原則として、日頃の状態を詳しくお伝えするようにしている。	いままでのかかりつけ医を主治医として、受診は家族対応を基本としている。お薬シートを活用して家族や主治医と情報の共有化に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面については看護師と連携を図り、安全第一を考えたケアに取り組んでいる。又、病院受診が難しい方には、訪問診療にて対応しており、連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院でのムンテラに参加させて頂き、常に病院の担当者と連絡を取り合い、できる限り早期退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り委員会への毎月の参加により、職員の知識を深めたり、重度化した場合の今後の対応についてもご家族と話し合いを行っている。	重度化や終末期に至った場合は、家族とも話し合い同法人の特別養護老人ホームや病院へ移行される方が多い。事業所としての看取りの実績はないが、同法人の看取り委員会に参加するなどして知識を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、周知を行っている。また。法人や施設内で定期的に行われる救命講習やAEDの使い方等の研修にせ、具体的な対応方法が身につけられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防立ち合いの避難訓練･通報訓練･消火訓練（夜間想定も含む）を行い、また、災害時に備えた訓練も行っている。また、いざと言う時の為に、地域の民生委員への協力もお願いしている。災害時のための非常食等の準備もしている。	法定の年2回の訓練の他、毎年1回以上は独自の避難訓練も実施している。災害時には民生委員の協力もお願いしている。非常食の備蓄に加え、停電時に備えて発電機も設置予定である。	地域の方に緊急連絡網への登載や訓練への参加を働きかけるとともに、協力可能な範囲について話し合うなどより災害対応力の向上に向けた取り組みを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	拘束褥瘡ゼロ委員会内で、声掛け、言葉遣い等の対応を適宜見直し、良い対応の仕方を学んでいる。また、トイレや入浴等、最もプライバシーな部分については羞恥心に十分配慮したケアを行っている。	丁寧で温かい言葉かけを常に意識して支援している。トイレの誘導時には耳元で他人に聞こえないよう注意している。家族や第三者が見て不快な思いがないよう心がけている。広報誌の掲載に当たっては事前に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、本人が選択できる声掛けを行い、少しでも入居者様自身が決めれる様な声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ミーティングや担当者会議により、また日々の職員間での相談にて、常にご利用者の状況把握を行い、それに応じた生活ケアが行えるように柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの趣味や好みを取入れ、またその日その日のご本人の声を聞き、本人らしい服装等が出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事全体を通して、何らかの役割がもてる様にも努めている。嗜好確認を適宜行い、食事中の些細な会話などでご意見などを聞きながら、献立作成を行っています。	食前には嚥下障害を防ぐため口腔体操を行っている。職員は介助をしながら楽しく会話し一緒に食事をしている。きざみ食など利用者の状況に合わせた食事作りを心がけている。クリスマスや正月などの行事食や外食、おやつ作りなども取り入れ、楽しくなるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好や摂取量を把握し、その方に合わせた提供方法を検討している。楽しみのひとつでもある食事ですので、できる限り嗜好に合わせられる様に努めている。水分摂取も食事同様に嗜好等を確認し、摂取量確保が出来る様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、必要に応じて一部介助を行っている。また、義歯の不具合があった場合には、直ぐに、ご家族へ連絡し調整して頂ける様お伝えしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、ご利用者個々のタイミングで声掛け、誘導を行い失禁を減らして、トイレでの排泄ができる様に努めている。	ほとんどが自立し、トイレでの排泄となっている。便秘にならないよう水分を摂るよう注意している。排泄パターンを把握して、仕草や表情から早めの誘導を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握や活動量確保を図る事を第一に考えて対応している。牛乳等の提供により、できる限り、下剤等にたよらずに対応できるように心がけている。少しでも無理なく活動する機会の確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定としては、ご利用者の要望等を確認して、日にち等を決めているものの、その日その日のご利用者、ご家族の状況に応じても入浴できるように対応している。また、夜間浴にも対応している。	週2～3回の入浴を基本としている。希望により夜間入浴も支援している。季節のゆず湯や入浴剤により楽しむことができるよう工夫している。拒否者には時間を置いたり、言葉かけを変えたりしながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、日中も短時間の臥床対応を行ったり、生活リズムに配慮しながら、無理なく活動と休息が行えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的や副作用等を確認し、内服方法や服薬時の注意点をシート化し、服薬時の対応方法が統一できる様に努めている。又、薬の使用目的や副作用について確認できるように個人ファイルに記載事項書類を添付し飲み忘れ等がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の行える事への家事参加を促したり、それに対してのお礼や褒める声掛けをしっかり伝えることで、喜びややりがいに繋がる工夫をしている。お菓子作りや季節に応じた行事などを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族とも連携しながら、出来るだけこまめな外出が出来るように対応している。定期的な同法人他施設への訪問(ヨガ教室、バイキング等)や、買い物、季節を感じられる場所への外出支援を行っている。	できるだけ希望に沿って、外出できるよう努めている。近隣の園芸センターや神社などに気分転換を兼ねてドライブに行っている。家族の協力のもとに外食や買い物などの支援も行っている。毎月行われている同法人のヨガ教室への参加も支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様に、お金を取り扱う機会を持って頂ける様に外出等でやり取りを行ってもらえる機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、職員仲介にて家族様に電話ができる様に支援し、年賀状や手紙などで外部との交流が途切れない様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活しやすい空間作りに努めております。又、季節に合わせた室温管理や掃除等での環境整備にも努めている。季節を感じられる雰囲気や、天気がいい日には、中庭のウッドデッキでお茶を飲んだり、草花や野菜を育てて、楽しみをもって頂ける空間作りも行っている。	リビングは日当たりも良く明るく清潔である。温湿度もこまめに確認し、快適に保たれている。利用者がゆっくりと寛げるよう飾り過ぎず、自宅と同じような見慣れた空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ベンチや和み間等、少人数でも過ごせる空間を設け、リビングの座席については、その日の状況により柔軟に対応している。新聞を1人で読むスペースや何人かで座れるベンチも設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してきたタンスや椅子等、馴染みのある家具でお部屋を設置したり等で、ご本人の過ごしやすい方法で対応している。又、写真やレクリエーションで作成したクラフト等も飾って、居心地良い空間作りに努めている。	エアコン、ベッドが備えつけられている。利用者はソファーやタンス、使い慣れた毛布、上掛けなどを自由に持ち込み、写真や作品などを飾って居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のトイレには、それぞれ分かり易い大きさの文字で示し、状況によっては居室内に貼り紙を貼って、場所の把握等が出来るように工夫し、自立した生活ができるよにしている。		